

尼崎城(琴浦城, 尼丘城) (指定無) (尼崎市北・南城内) (明城小学校)

尼崎城（あまがさきじょう）は兵庫県尼崎市にあった尼崎藩の藩庁の城郭である。

沿革

元和3年（1617年）、戸田氏鉄（うじかね）が5万石で入封し、戦国時代の城跡に築いた。3重の堀をもち、本丸には4重の天守と3重の櫓が上げられた。

戸田氏の後は、青山氏4代、そして正徳元年（1711年）桜井松平忠喬（ただたか）が4万6千石で入り、以後桜井松平家の支配が7代と続き幕末を迎えた。最後の藩主は松平忠興である。

明治6年（1873年）の廃城令により建物は一部を除き取り壊されたが、明治7年（1874年）、本丸御殿の一部が菩提寺・深正院（市内大物町）の本堂として移築された。この本堂は戦前まで残っていたが、戦災に遭い焼失した。城跡に尼崎城址公園が整備され、石垣および土塀が模擬復元されている。

歴代城主

戸田氏鉄が尼崎城を築城してから松平忠興で廃城をむかえるまで3氏12代の城主が入れ替わった。歴代城主については尼崎藩#歴代藩主を参照。

縄張り

尼崎城は、大物川と庄下川が大阪湾に注ぐデルタ地帯に築城された城で、尼崎城に直接船が横付けできた事から、海に浮かんだような城であったと言われている。

水堀は2重、3重に巡らされ、縄張りはほぼ正方形で本丸を中心に、天守・三重櫓・門・本丸御殿・二之丸・松之丸・西三之丸・東三之丸・南浜などを備えた近世城郭であった。

本丸

本丸は東西、南北とも約115mで尼崎城の中心に位置し、政務をつかさどる重要な場所であった。方形の敷地に天守1基、3重櫓が他の3隅に1つずつ建てられ、中心に御殿があった。虎口は東に虎之門、南に太鼓門、西に搦手門の3つが開かれていた。本丸跡地は尼崎市立明城小学校になっている。

天守

本丸の東北隅に位置し、東西21m、南北17m、高さ18m、西側と南側に付櫓を持つ複合式層塔型4重天守で「分間城図付絵図」では「四重組大櫓」とも併記されている。外観は白漆喰総塗籠で2重目から4重目に唐破風や切妻破風が付けられていた。

隅櫓

隅櫓は天守以下の4隅に建てられ、何れも3重で2重目屋根に唐破風、切妻破風、千鳥破風を付けていた。

東南隅：武具櫓、西南隅：角櫓（伏見櫓）、西北隅：塩糟櫓

尼崎城と大物城

尼崎城と大物城は同一の城か、別の城かの議論がある。

大物城

細川高国が永正16年（1519年）に当初は柵程度の城を築城。その後、増改築をし本格的な戦国期の城が大永6年（1526年）には築城していたと思われる。また、この大物城が別名「尼崎城」とも呼ばれていたため、現在の尼崎城とも混同されやすい。

尼崎城

尼崎へ入封した戸田氏鉄が元和3年（1617年）に築城。本丸の位置は、中世の絵図を参考にすれば、本興寺の故地に当たる。この「近世尼崎城」は、現在の尼崎市北城内・南城内に位置する。尼崎市史（昭和40年代発行）によると、大物城を取り壊しその上に規模を拡大して近世尼崎城築城と判断していた。これが同一の城という根拠になり、他の尼崎城の文献にもそのような記載が見かけられる。し

かし、その後に尼崎市立地域研究史料館が編集している地域史研究に掲載されている小野寺逸也の論文「江戸時代前期の尼崎城下絵図について (2)」では、戦国期大物城はむしろ近世尼崎城の北東、大物の西側付近にあったものとの考えが示されている。『尼崎城下絵図』によると、池のような場所の南に「古城」という場所が記載されており、これが大物城のことではないかと推察されている。現在の阪神電車車庫東端からその東側辺りで、近世尼崎城でいうと城下町にあたる。

これらよりただちに「同一の城ではなかった」とは言えないが、現在では「別の城であった」という説が有力である。

Wikipedia による

